金澤町家だより

【第 50 号・記念号】
2024. 12

【編集・発行】ＮＰＯ法人金澤町家研究会／広報交流部会

■金澤町家だより第 50 号にあたり

ニュースレター「金澤町家だより」は 2006 年夏に創刊し、今号で第 50 号となりました。

また、NPO 法人金澤町家研究会は 2025 年に設立 20 周年の節目の年になり、第 50 号の「金澤町家だより」を記念号として、これまでの活動に関わっていただいている会員やご関係者様からのご寄稿文を紹介いたします。

金澤町家研究会の活動の歩み－2005～2024－

金澤町家研究会・川上光彦理事長

町家研の活動は、金沢市の歴史まちづくりの取組みが、それまでの歴史的建築物と町並みの「保存・景観」から「利活用」へと拡大する中で、京都市などの取組みを参考に任意団体として 2005 年にスタートした。最初は市委託による各種の調査事業を行うとともに、実際に空き町家であった「寺町町家」や「上新町町家」を借り、改修 WS、活用実験、近隣住民向けのイベント開催など実施した。各種の活動助成金の獲得、2008 年の NPO 法人化など、内容を充実させていくが、それらは当時の事務局長水野雅男氏の手腕に負うところが大きい。その後、ギャラリー＆カフェ椋の２階の一部を事務局として借りて活動、金澤町家巡遊の開始、市民向けの町家セミナーの開始、「優良金澤町家」の認定、金澤町家の改修相談など、活動を多様化させていく。

市による空き町家の流通コーディネート事業を 2011 年度より受託し、それと関連して古村尚子さんを事務局員として迎え、彦三町家を改修して活動拠点とするなど、市民活動団体として比較的安定した活動を行うことができるようになっている。

本研究会の特徴は、メンバーに大学教員や建築士が多く、市の施策推進と連携して進めていることである。また、各種の活動については、それぞれ報告書としてとりまとめ、記録として残すようにし、各地の類似団体等へ情報発信して来た。その他、書籍「金澤町家」発刊（2015 年、2021 年）、谷内正遠氏の木版画セットの発行、紙芝居「タロウとサクラの金澤町家ぐらし」制作、2016 年からフードピアの「金澤町家周遊ツアー」を担当している。

これからは、これまでの諸活動を検証、必要な改善を行いつつ継続し、若い世代への継承を進めること、金澤町家の改修、活用へ、市と連携しつつ、より実践的な活動を模索していくことなどがあげられる。また、各地の類似団体等とより活発に交流していくことも大切ではないかと思っている。

寺町町家（2006 年頃）

上新町町家（2007 年頃）

“2024 金澤町家シンポジウム”翌日の金澤町家ツアー後、四知堂にて
（左から山本玲子、増田達男、石附幸子、岡崎篤行、大倉宏の各氏と筆者）

NPO 法人金澤町家研究会　概要　連携団体：LLP 金澤町家・金澤町家友の会・金澤町家学生会議・（一社）金澤町家活用推進機構

2005 年任意団体「金澤町家継承・活用研究会」発足、2008 年「NPO 法人金澤町家研究会」となる
2008 年より「金澤町家巡遊」がスタート
2010 年より「優良金澤町家」認定を開始 2022 年までに 151 軒の金澤町家を認定
2011 年より「金澤町家流通コーディネート事業」を金沢市より受託
2016 年５月より「彦三町家」を活動拠点とする
2016 年よりフードピア金沢の「金澤町家“食”めぐり・金澤町家周遊ツアー」企画協力、同年より「金澤町家塾」受託
その他、調査事業や相談業務、情報発信事業など金沢市とも連携し活動中☆

金沢の歴史的環境を代表する金澤町家

金澤町家研究会・増田達男副理事長

金沢には外国人を含め多くの観光客が訪れています。金沢にとって歴史的環境が最も大切であることを再認識することができます。その代表的要素が「金澤町家」にほかなりません。金澤町家には町家系だけでなく武士系住宅もあります。城下町であった金沢は、その大半を武家屋敷が占めていました。その中で最も多かったのは侍屋敷でした。今は僅かな軒数しか残っていませんが、格式のあるその建築スタイルは、明治以降も武士にあこがれた給与所得層の新築住宅に広く継承されました。一方、城下町の表通りに店を連ねていた町家は、明治以降もそのまま存続しました。近代の繁栄とともに新たに建て替えられた町家は、2階を高くして軒の天井を欅の板などで贅沢に飾りました。これらの武士系住宅や町家が、今も6,000軒ほど旧市街地に残っています。しかしながら、年々減少を続ける厳しい状況に置かれていることに予断を許しません。

研究会発足後20年にわたり、金澤町家を守る方法について幹事会で相談しながら活動して参りました。5年ごとの悉皆調査、優良金澤町家の認定、譲渡・賃借への助言など、活動内容は多岐にわたります。この間、金澤町家の移り変わりを俯瞰してきましたが、活動の課題はまだまだ山積している状態です。多くの金澤町家が大切に維持されることを願いながら、歩みを続けていきたいと思います。

まち歩きツアーで解説しているところ

（左）侍屋敷を継承した近代の武士系住宅
（右）軒天井を欅板などで飾った近代の高町家

町家研とともに

金澤町家研究会・坂本英之理事

NPO法人金澤町家研究会の活動の中で心に残っていることたくさんありますが、一番といえば町家巡遊の活動でしょうか。この活動は町家研以外にも多くのメンバーに気軽に参加していただいている開かれた活動です。町家を中心に据えて、活動自体は様々な人たちが行き交うプラットフォームのようなものだと思っています。企画をまとめてくださるＩさんや、陰の調整役に徹しているＨさん、人のネットワークを駆使して盛り上げるＯさん、要所々々をしめて下さるＫさんなど、それぞれ個性豊かな皆さんによって支えられていますが、参加される外部メンバーの皆さんも決して引けを取らないとても個性的な方々です。迷走状態から徐々にひとつの方向にまとまって行くのがまたたのしい活動です。

金澤町家巡遊の様子

NPO法人発足前夜のころ
―寺町の町家・新町の町家とともに―

金澤町家研究会・馬場先恵子監事

NPO法人金澤町家研究会設立の2年前、金澤町家継承・活用研究会として活動が開始された。思い出深いのは、広報活動の一環として約2年間、寺町と新町の町家を借りて各大学の学生たちとともに行った各種活動である。

「大掃除ワークショップ」では、すす払いのつもりが箒で壁土をどんどん落としてしまったこと、古い障子紙を千切っていたので桟を水で濡らしてまとめて剥がす方法を教えたことなど、若い人たちに伝統的な家屋の扱い方を伝えていく必要性を感じた。学生たちは大掃除に加えて職人さんの指導による漆喰や土壁の部分補修や障子貼りなど新たな体験を楽しんだ。壁塗り体験の数日後、職人さんが剥落してしまった土壁を塗り直していたことを、学生は知る由もない。

また、地元住民たちとの交流会も行った。大学茶道部や能楽部と開催したお茶会や謡の発表会、近所の子どもたちにお声がけした町家探検や昔遊び体験も楽し

い思い出である。家の中を歩き回り、旗源平やコマ回し、メンコ、おはじきなど、学生も子どもも一緒に楽しんだ。

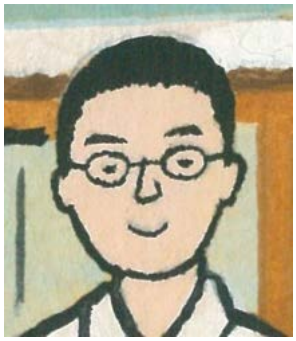
その他、寺町の町家はアートの展示や落語寄席会場などに、新町の町家は、断熱効果のある蔵を宿泊体験に使われた。当時は古家でしかなかった建物も、金澤町家としての認知度が高まってきたようである。しかし、飲食店や宿泊施設などの利用が増えた一方、相変わらず失われていくものも多く、当研究会の今後の役割を改めて考えさせられる。

寺町の町家にて
すす払い・障子張り・能楽部の発表会

町家研の、おかげさま

金澤町家研究会・橋本浩司理事

2004 年、県外から石川県に戻り金沢に住むために賃貸物件を求めて不動産屋を廻った際、「町家に住みたいのですが」と相談したらほぼ全ての対応が「町家って、、、何ですか？」という対応だった。NPO 法人金澤町家研究会の母体が発足したのはその翌年の 2005 年、まだまだ一般的に町家という言葉は普及していなかったが、そこから既に 20 年近く経って、町家の存在はすっかり金沢に認知されてきたと思う。町家研はその間、行政と歩調を合わせながら、川上理事長を中心に町家の継承や活用のために積極的に活動してきたが、2011 年に古村さんが専門の事務員として入ってくれたことがとても大きいと感じている。それにより NPO 法人としてしっかりした構えが整い、何より古村さんのきめ細かな配慮のお陰で、みな安心して活動することができている。この場を借りて古村さんに感謝したい。いつも本当にありがとうございます！



2004 年から 10 年程住んでいた貸家。
今でも他の方の貸家として使われています。

金澤町家巡遊

金澤町家研究会・奥村久美子理事

近くにひがし茶屋街があり、町家が多く残る東山で、住まいも昭和初期の金澤町家で小さい頃から暮らしてきました。本会にて長年取り組んでいます「金澤町家巡遊」は、2008 年より毎年開催しております。初回、私が住む東山にて仲良くさせていただいてる町家暮しの 3 軒にお声かけし、拝見させていただきました。3 軒とも当時 80 歳以上？お一人暮らしのお姉さま方です。開催当日、赤ちゃん連れのご家族がお越しの際に、『あかちゃん、私が抱っこしているから、奥までどうぞゆっくり見てらっしね。』とお住まいのＮさん。『本当に久しぶりに、赤ちゃん抱っこさせてもろて、嬉しいね～。元気いただくね～。』と満面の優しい笑み。拝見当日までの不安も吹き飛ぶ、大変嬉し

い光景でした。15 年以上経った今も 3 軒の町家と共に、お姉さま方はご健在です。大切にお暮しいただいている方々がいらっしゃるからこそ、生き続ける金澤町家。毎年開催の「金澤町家巡遊」是非皆様お越しください。

東山 N 邸

金澤町家に出会って

金澤町家研究会・北出健展理事

首都圏から移住し金澤町家研究会の活動へ参加させて頂いてまもなく 10 年になります。

移住前に金沢を訪れた際は、金澤町家のショップマップを片手に巡り歩き、金澤町家情報バンクの沢山の町家を楽しみに眺めていたこと。そして、金澤町家巡遊の畳縫いワークショップに参加したり、次の年にはお手伝い参加に駆けつけた事など、楽しく懐かしい思い出です。

移住に際しての物件探しでは、金澤町家流通コンサルティング事業に登録し、ご紹介頂いた物件でのオーナー様との緊張しながらの面談など、様々な面で助けて頂きました。

今ではコンサルティング事業の担当として町家を活用したい方、活用して欲しい方のお手伝いをさせて頂いたり、金澤町家巡遊ではスタッフとして、また、改修を終えた拙宅は会場として、参加から運営の一員へと温かく迎えて頂き、楽しく充実して過ごさせて頂いています。

これからも沢山の方々に魅力的な町家がまだまだ残る金沢にぜひいらして頂き、町家にも暮らして頂き、そして町家を楽しんで頂けると嬉しいです。

北出さんご夫妻と「豆月」外観

金澤町家を事務所として利用して

金澤町家研究会・栗田均理事（金澤町家友の会幹事）

幼少期から母の実家である京町家に親しんでいたため、金沢で住まいとして町家を探していた際に「金澤町家研究会」の活動を知り、参加を通して町家保存の重要性を再認識しました。しかし、期間内に理想的な町家が見つからず、新築マンションでの暮らしを選択しました。それでも、金沢の中心部に住むことで、歴史や文化を感じられる生活を満喫しています。

2017 年に彦三町家に事務所を移転し晴れて町家ユーザーとなりました。町家を事務所に利用することに多くの得意先は驚き「素敵ですね」と言いながら「そんな場所で業務ができるのか」といった眼差しが向けられますが、歴史と文化を尊重する姿勢が評価されることも多く、打ち合わせも座敷で落ち着いた雰囲気の中で進められるため、柔らかなコミュニケーションが可能です。もちろん業務については問題ありません。

不便さや不安も感じています。新築マンションの断熱性能の高さを実感しているため、町家の冬は暖気が逃げやすく、夏は 2 階が暑くなり、「エコ」には程遠いと感じざるを得ません。今年の能登地震では、改修されていない 2 階の内壁に小さなヒビ割れが生じました。90 年以上手が加えられていないこともあり、かなり性能が落ちているようです。一方で、改修済みの 1 階にはまったく被害がありませんでした。町家を安全に利用するには、適切な維持管理が不可欠であると再認識させられました。

【会員からのメッセージ紹介】

金澤町家友の会・中西晶子

金澤町家研究会のみなさん！いつもありがとうございます。 研究会のみなさんの活動のおかげで最近は世の中全体が金澤町家を応援しているようで、とてもうれしいです。散歩していて金澤町家をみかけるとうれしくなります。

子来町の高台からながめる蓑並木の風景がこれからもずっと続きますように。

谷内正遠木版画絵葉書（弐）より
「東の茶屋街の俯瞰景」

金澤町家～市民運動から事業化へ

一般社団法人雁木のまち再生 代表理事　関由有子

金沢は「雲の上の存在」。町並み景観の連続、繊細な伝統工芸、渋い外観とあでやかな室内意匠の対比が、歴史の底から浮かびあがります。３０年前に兼六園と博物館などを見学し、前田家百万石の底力をひしひしと感じました。

上越市高田に戻って雁木町家に関わり出したころ、川上理事長からのお誘いがあって金沢再訪。東山から寺町と武家町界隈、西茶屋街までご案内いただきました。以来、研究会の皆様との交流が続きます。総合的な補助制度に合わせて、学術的な調査研究を蓄積して「公民連携まちづくり」のお手本、多彩な活動と報告を継続されています。さらに金澤町家活用推進機構を組織して、具体的な事業化に向かっています。上越市と規模は異なりますが、目指す方向を示してくださいます。

今夏、金沢建築館で谷口吉郎の「金澤診断」をじっくりと見て、半世紀以上も金沢の重層的な街並み整備ビジョンを実践されていることに敬服します。個人的には、野町、西茶屋街、迷路的材木町は『推しまち』、『金澤町家』のロゴもお洒落！　我々も血の通う活動を続けられる団体を目標にしています。今でも遠い存在ですが、上越とは北陸つながりで親しみが増しています。

四知堂（尾張町）

関様、松本様、本光様、

ご寄稿いただき、誠にありがとうございました

金澤町家研究会の活動に期待する

ことのは不動産 代表取締役　松本有未

私が初めて金澤町家に住んだのは 2006 年のことです。当時、「金澤町家」という言葉自体があまり知られておらず、町家は暗くて寒く、古いだけの家というイメージが根強く、所有者や不動産業者からも価値を見出されていませんでした。しかし、それから 20 年が経ち、町家を店舗や宿泊施設として活用したい人や、住まいとして利用したい人が増え、多くの町家が流通するようになっています。この変化の背景には、金澤町家研究会の活動が大きく寄与していると感じています。

一方で、町家の耐震改修工事や税制に関する情報は未だに少なく、需要が増加したことにより、知識不足のまま改修や媒介を行う業者も見受けられます。こうした課題に対応するため、金澤町家研究会が基礎的な知識を共有するための勉強会を開催していただけると、町家の保存と安全性向上がより進むと期待しています。今後も金澤町家の保存や活用が進むことで、地域の活性化や伝統文化の継承が深まることを期待し、研究会のさらなる発展を願っています。

金沢市文化スポーツ局　歴史都市推進課長

本光　章一

NPO 法人金澤町家研究会設立２０周年、誠におめでとうございます。

貴研究会の設立後、様々な取り組みを通じて再生・活用された金澤町家が市内に増え、市民にとっても身近な存在として理解が深まってきました。

この２０年、大きく変動する時代の中で、金澤町家に係る活動や取組みを継続され、本市特有の重層的な歴史まちづくりに多大な貢献をいただいていることにあらためて感謝申し上げます。

これからも、貴重な歴史文化資産としての保全・継承にとどまらず、金澤町家に息づく伝統構法の継承・活用、気候風土に根ざした生活空間としての再評価、魅力的な生活文化の発信等に関する活動の展開によって、金澤町家の拠点的役割を果たしていただけることを期待しております。

最後に、皆様の益々のご発展とご健勝を心より祈念申し上げます。

金澤町家研究会の存在感

金澤町家研究会事務局・古村尚子

ご縁があり、2011 年 7 月より金澤町家研究会事務局専任スタッフとして研究会活動に参加し、川上理事長や増田副理事長をはじめ、金澤町家研究会のメンバーには大学等研究者や金澤町家の改修に携わる建築士の方も参加されており、金澤町家のスペシャリストに囲まれて日々、多くのことを学ばせていただいています。

金澤町家研究会の活動は、設立当初から金沢市と連携し調査事業や情報発信事業など進めてきました。市が管理・運営する「金澤町家情報館」(2016 年 11 月開館)は金澤町家の保全活用に関する総合相談窓口であり、市の職員とともに専任スタッフとして常駐し、流通支援や町家施策に関わる各事業の相談対応に携わっています。金澤町家を所有する方、これから活用したい方、宅建業の方々などの様々な相談に、流通部会メンバーや建築士グループ LLP 金澤町家などと協力し、疑問や不安の解消、適切なご提案ができるよう、努めています。

事務局として金澤町家に関わる多くの方と繋がることができ、また、たくさんの経験をさせていただいています。これまでに蓄積した経験を活かして、「金澤町家のことは、まず、金澤町家研究会に聞いてみよう」と真っ先に浮かぶような、そんな存在でありたいと思います。

引き続きご指導よろしくお願いいたします。

広報誌・金澤町家だより【創刊号】～【第 49 号】を読む ➢➢ 金澤町家だよりバックナンバー

【編集後記】

「金澤町家だより」はこれまで活動報告を中心に編集・発行してきましたが、今回はじめて会員やご関係の皆様からの寄稿文をご紹介する企画としました。20 年の活動を振り返り、あんなこともあった、こんなこともあったと改めて思い出す機会となりました。金澤町家を取り巻く環境は様々に変化しますが、研究会活動が金澤町家の保全活用の一助となるよう、今後も楽しく活動していきたいと思います。

ＮＰＯ法人
金澤町家研究会

【お問い合わせ】 事務局
〒920－0854 金沢市安江町 4 番 20 号
Tel.076-254-0647／fax.076-254-0657
E-mail kanazawa-machiya@nifty.com http://kanazawa-machiya.net